

富山県の交通の様子



交通とは？

「人」や「もの」を運ぶための大切な働きです。

公共交通とは？

交通のうち、「鉄道」や「バス」など、だれでも利用できる乗り物のことをいいます。

駐輪場(速星駅)



優先座席



パークアンドライド駐車場(越中八尾駅周辺)



世帯あたりの自家用車普及台数

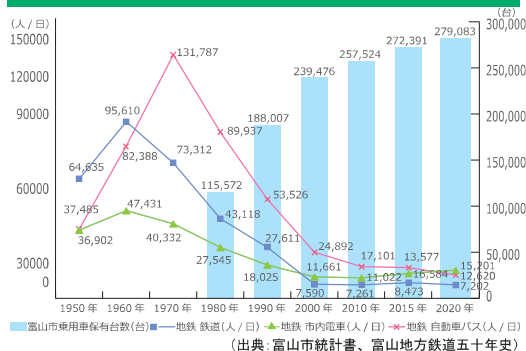
1.6 (台)

1世帯あたり

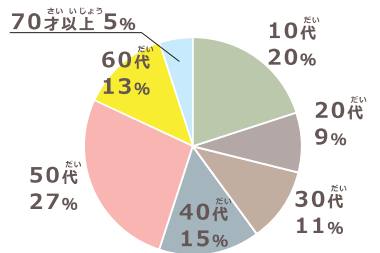
全国第2位
富山県

(自動車検査登録情報協会[令和5年3月末現在])

公共交通の利用者数と乗用車保有台数

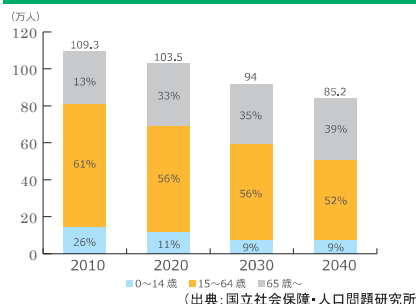


公共交通(鉄道)を利用する人



※JR高山本線を利用する人(平日)
(出典:H20年度 富山市調査(平日))

富山県の人口推移



公共交通と市街地(住宅の多いところ)



R2.3.21~
富山港線は市内電車と接続

凡 例
市街地(住宅の多いところ)
市や郡のさかい
町や村のさかい



今はなくなった笹津線

公共交通の発展に力をつくした人…「佐伯宗義」

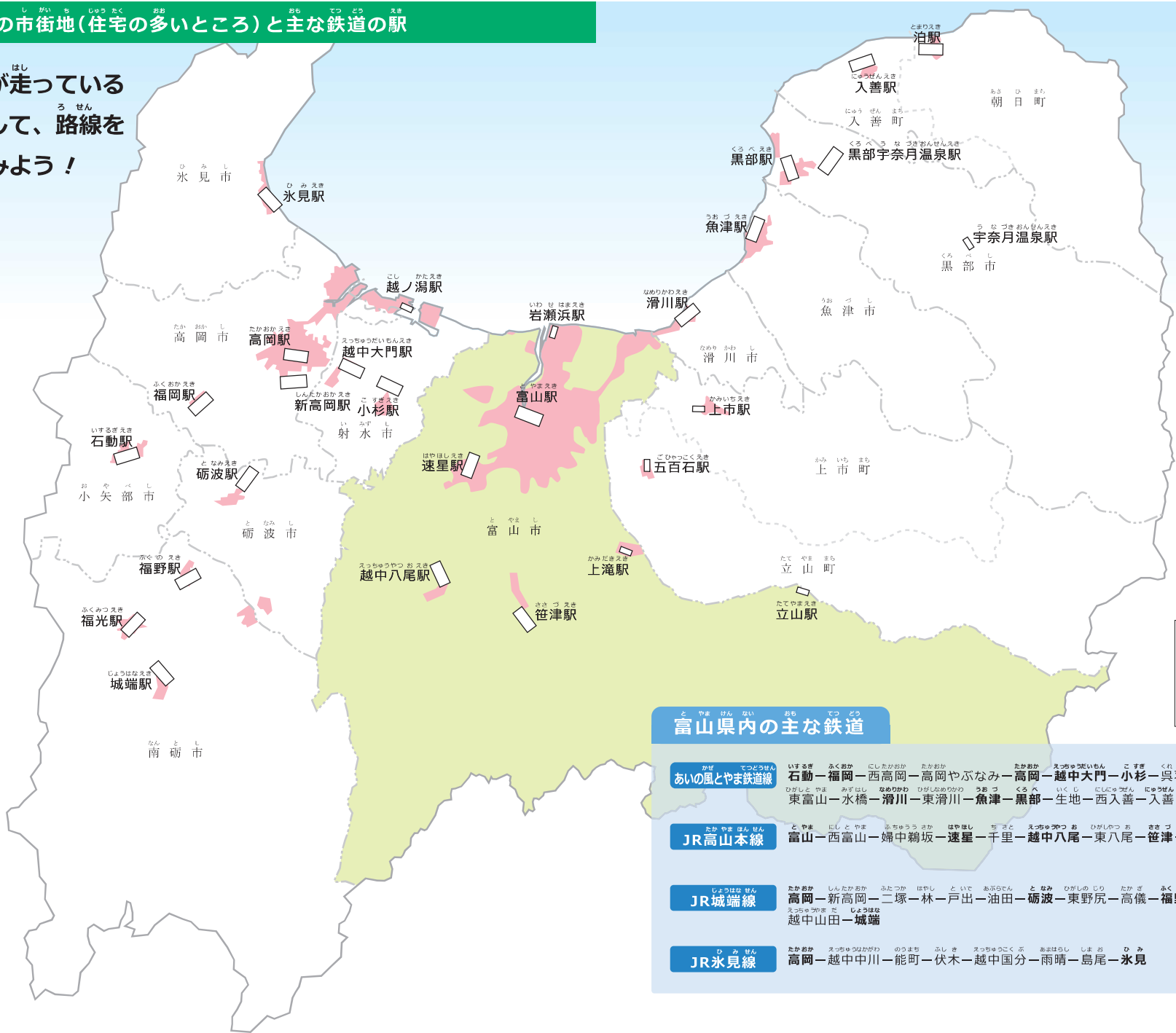


佐伯宗義は、1894年、富山県中新川郡立山町芦峯寺の山里に生まれ育ちました。宗義はこどもの頃から、「山里に生まれたというだけで仕事も学校も病院にもいけないような不便な生活をしなければならないなんて、不公平だ！」と考えていました。そして、大人になったらふるさとのために役立ちたいという思いをもつようになりました。

大人になった宗義は、「電車やバスなどの交通網を整えば、山里に住む人たちも、町に働きに出られるし、学校や病院にも行ける。人々のくらしをよくするためには、くらしの足が必要だ」と考え、1930年に富山電気鉄道(今の富山地方鉄道)をつくり、交通事業を始めました。そして、富山~滑川、魚津などに鉄道をのびし、バス路線を広げていきました。

↓ 富山県内の市街地(住宅の多いところ)と主な鉄道の駅

てつ どう せん ろ はし
鉄道の線路が走っている
ば しょ よ そろ せん
場所を予想して、路線を
か い
書き入れてみよう！



- 凡 例
- 市街地(住宅の多いところ)
 - 県のさかい
 - 市や郡のさかい
 - 町や村のさかい

と やま けん ない おち てつ どう
富山県内の主な鉄道

かぜ てつどうせん
あいの風とやま鉄道線

いする ち かく にかが たか が 石動—福岡—西高岡—高岡やぶなみ—高岡—越中大門—小杉—呉羽—富山—新富山口—
ひがしと やま みずはし なめりかわ ひがしなめりかわ うづ くる いく にしにやぶ におうろ とまり えつちゅうみやぎ
東富山—水橋—滑川—東滑川—魚津—黒部—生地—西入善—入善—泊—越中宮崎

たか やま ほん せん
JR高山本線

と やま にしと やま あちゅう さか はやばし ち ざん えつちゅうお お ひがしやつ お さき づ にれはら いのに
富山—西富山—婦中鵜坂—速星—千里—越中八尾—東八尾—笹津—楡原—猪谷

じょうはな せん
JR城端線

たか が しん たか が ふたつ はやし といて あまごん と なみ ひがしの じり たか づ あく の ひがしいくろ あくあつ
高岡—新高岡—二塚—林—戸出—油田—砺波—東野尻—高儀—福野—東石黒—福光—
越中山田—城端

ひ み せん
JR氷見線

たか が えつちゅうなかがわ のうまち ふし き えつちゅうこく ぶ あまはらし しま お ひ み
高岡—越中中川—能町—伏木—越中国分—雨晴—島尾—氷見